2019年7月某日

差枚	+1499枚	RANK	A

実戦機種

パチスロ北斗の拳 修羅の国篇、パチスロ これはゾンビですか？

実戦レポート

「今日もリゼロ？」から始まる高設定予想生活も、もう3ヶ月目ぐらいか。まぁ抽選番号が早かった時に、攻めるべき機種がハッキリしているのはある意味良いことだが、これだけいつもいつも高設定ばかりで、各ホールはリゼロでの採算は取れているのか？と疑問に思うほどだ。

しかし問題は、リゼロを取れなかった時だ。店内の高設定台数はどうしたって限りがあるから、リゼロにその何割かを持っていかれるとすると、必然ほかの台の期待度が下がってしまうことに…。そんなことを考えながら引いた入場抽選は「48」。メインどころはほぼほぼ埋まっている中、バラエティコーナーへ直行です～。

そう、リゼロが取れなかった場合はバラエティの新台である猛獣王を打とうと、今日は決めていたのだ。今までの実績からして、かなり高い確率で高設定が望めるハズだが…はい、取られてましたー！　しょうがないので、先月にバラエティの仲間入りした「パチスロ北斗の拳 修羅の国篇」から始めることに。前回来た時は高設定じゃなかったようなので、今回はどうだ？

この北斗修羅、設定推測は難しい部類だと感じる。設定差は小役確率よりもモード移行（昇格・降格）率にあるのだが、肝心の滞在モードが他の北斗シリーズに比べて見抜きづらいのだ。演出の発生頻度もそうだが、おそらく根本的な原因は、リプレイによるモード転落率が高めになっていることだと思う。苦労してせっかくレア役を引いても、大体はその後少々煽っただけですぐ液晶がおとなしくなるんだけど、モードの昇格自体しなかったのか、それとも昇格したけどすぐリプレイで落ちたのかが分からないのだ。まぁ、高設定になるほどモード降格もしにくくなるので、特に設定6ならばかなり高モードに滞在しやすいんだとは思うが…。

今さら誰の得にもならない北斗修羅の考察を書いているうちに、現実では500Gほど回してスイカもそこそこ引いたけど、高モードっぽい挙動はなし。くそぅ、もう厳しいぜ。朝から何の得にもならない負債を背負い、やっちまった感満載で次の台を探し始めると、1Gも回っていない「パチスロ これはゾンビですか？」が目に入った。ってか、朝イチは誰かの台確保券があったハズだが、結局手放したのか？　実はこの台もいつも高設定が入りやすいところなので、すぐにキープして打ち始めると、序盤からボーナスが好調に当たる、当たる。そして1時間後には、REG中に「設定4・6確定」の画面が！　か、簡単かよ！　ってか、北斗修羅を打った時間とメダルが完全にムダだった…。そのまま順調に出て、3000枚には半分足りない「A級」終了でした。